



マスターズ水泳の現状



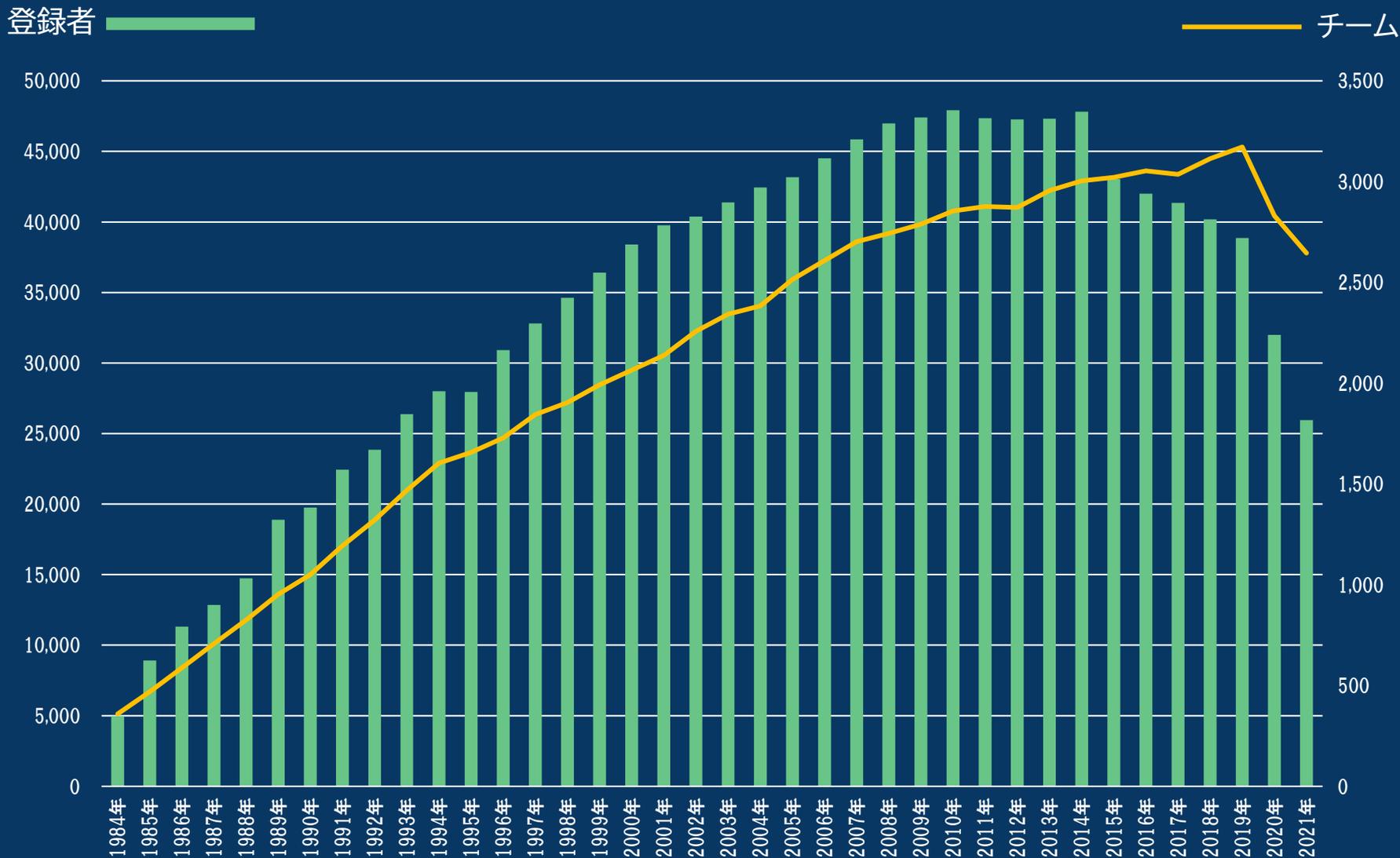
マスターズ水泳の成り立ち



- 1984年 第1回長水路大会（現ジャパンマスターズ）
- 1985年 短水路大会（全国3会場）・長距離大会
- 1986年 第1回世界マスターズ水泳選手権東京大会
- 1989年 短水路大会 全国15会場に拡大
- 1991年 第4回パンパシフィックマスターズ東京大会
- 1992年 MSI※が世界記録を制定（※MSIはのちにFINAに吸収）
- 1996年 短水路大会 全国24会場に拡大
- 1997年 ウーマンズ・スイム・フェスティバル
- 2005年 長距離大会愛知会場
- 2009年 第1回ゴールドマスターズ
- 2018年 第1回アジアマスターズ
- 2019年 公式大会5・公認大会73（合計105競技会）
- 2021年 公式大会3・公認大会23（内公認記録会16）
- 2023年 第19回世界マスターズ水泳選手権九州大会



登録数推移



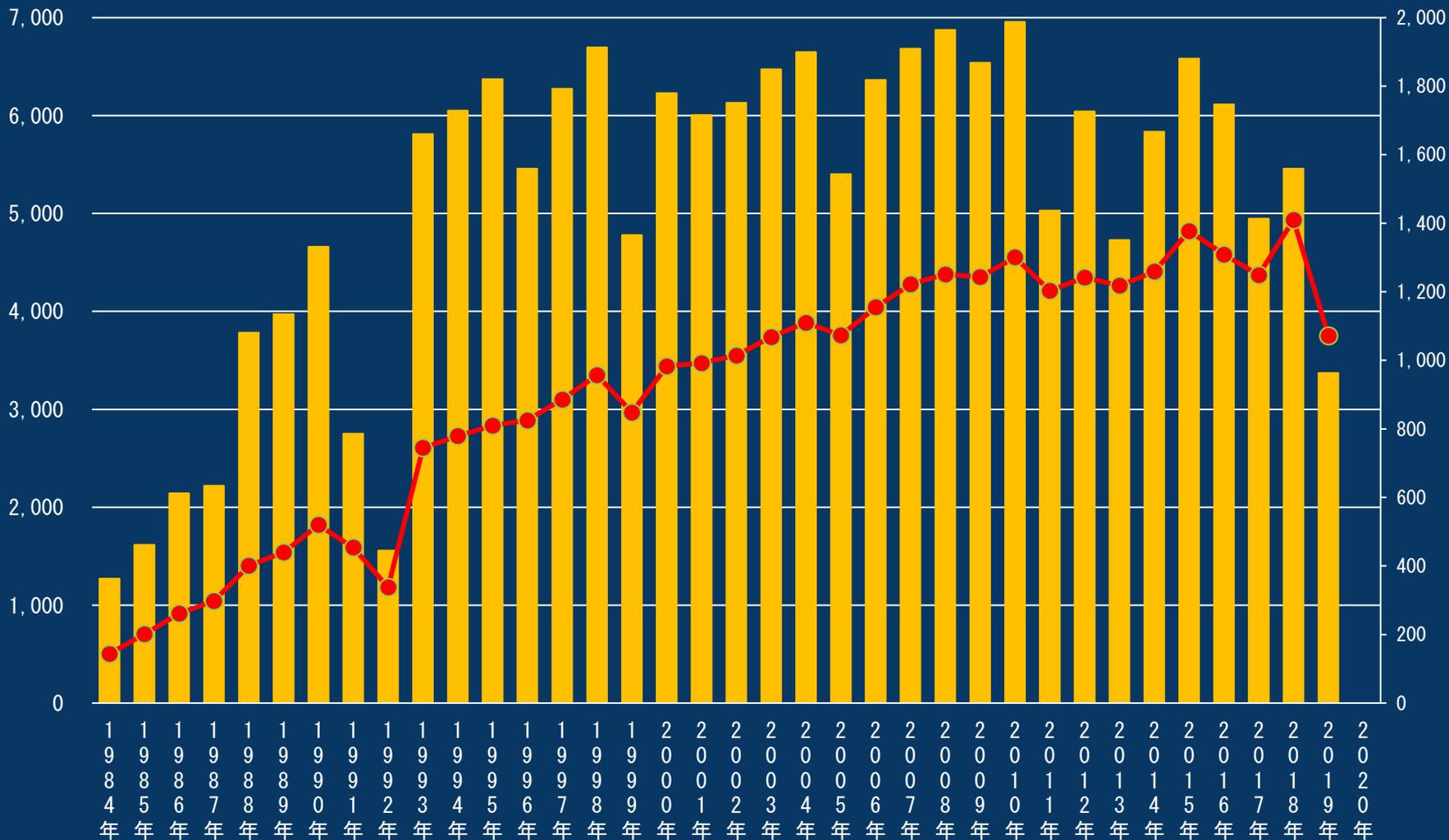


ジャパンマスターズ参加数



参加者 

 チーム





SDGsとマスターズ水泳



目的



健康
友情
相互理解

目標



生涯スポーツ
環境整備

手段



競技会
場の提供
コミュニティ

2024年目標 登録（活動）数 5万人

誰もが楽しめる競泳を目指して！



参加しやすい競技会へ



「公認記録会」の開催促進！

■競技会システム

ジャパンマスターズ

スプリント

長距離

Team対抗

短水路大会 全国28会場(2019年)

公認大会 全国約70大会

★公認記録会

★All Swimmers Ranking

- 本協会主催による全国選手権規模の大会：登録者のみ参加可
- 本協会主催による普及目的の大会：登録者のみ参加可
- 公認する各主催団体による運営：登録者のみ参加可・すべての記録を公認
- 任意の団体による運営：非登録者も参加可・登録者の記録は公認
- 全国の記録を集計：記録は非公認・すべての属性のランキング集計



公認記録会



実施しやすい競技会として推進

- **主管団体として登録**
 - 初登録時に簡便な審査
 - 各都道府県水連、公営競技場、スイミングクラブ、任意団体
- **(公財)日本水泳連盟公認プールまたは当協会が承認したプール**
 - 長水路および短水路とする
 - 公認プールの場合は世界記録申請も可能
 - 必ずしもプールの全レーンを利用した運営としなくてよい
- **登録の有無にかかわらず参加可能とする**
 - 15歳以上から参加可能とし、マスターズ水泳を知っていただく
 - 公認記録に興味がない方にも参加してもらい、登録に繋げていただく
 - 登録の有無にかかわらず同じ組でレースが可能
- **競技役員の配置基準を公認大会より緩和**
 - 少数の競技役員でも実施が可能とする
- **デジタルストップウォッチでの計測を認める**



大会予定



• 2022年

- 短水路大会 4月3日～6月12日 全22会場
- ジャンボウカップ 6月4日～5日 福岡市総合西市民プール
- ジャパンマスターズ 9月28日～10月2日 大阪プール
- 長距離大会 10月29日～30日 サンフロッグ春日井
- スプリント 11月26日～27日 千葉県国際総合水泳場

• 2023年

- 第19回世界マスターズ水泳九州大会
 - 2023年8月2日～8月11日 詳細日程未定